

解答

一

- (一) ㊦ たじろぎ（ながらも） ㊧ なだめ（ても） ㊨ たぎらせ（ながら）
(二) 弓子をかばうつもりはない
(三) ア 6 イ 2 ウ 4
(四) ウ
(五) 弓子は父の怒りにおどろきながらも平然としているが、太二は父と姉のようすを心配している。
家族：弟の太二がテニスにうちこみ、周囲からも両親からも応援されていることにコンプレックスがあり、自分は両親に素直になれずくしゃくして、おもしろくない。
(六) 学校：小学校では優等生だと言われていたが、上には上がいたし、合格した中学でも同級生たちに圧倒され、自分はこの学校にふさわしくないのではないかと居場所がないように感じている。
(七) ア 別格 イ 頭角 ウ 自覚
(八) a 理知的 b 満足感 c 達成感 d 対照的
(九) どこにいたって、うまくいかないのだ
(十) おかえりなさい
(十一) C ↓ B ↓ A ↓ D ↓ E ↓ F
(十二) 弓子のことを肯定的に受け止めて、両親に理解を求めてくれ、さらに「あなたが切り開く輝かしい未来がある」と応援してくれた水野先生のおかげで勇気づけられ、自分が決めた学校で前向きに精いっぱいがんばっていると思う。
- (十三) ① 単刀直入 ② 正当化 ③ 合点 ④ 唱える

二

- (一) a 次から次へと b 身動きできなく
(二) 人の心 ～ がある
(三) 子ども ～ る存在
(四) 2・5

解説

一

- (六) 「優等生だとみられていたが」上には上がいるのもわかっていた」「『太二くんのおねえちゃん』と言われるようになったのがなにより悔しかった」「弟に対するコンプレックス」「しだいに居心地の悪さを感じるようになった」「自分はこの学校にふさわしくないのではないか。」「両親に自分のことも気にかけてほしかった」「両親から認められていないのは苦しかった」など、弓子の心情が描写されている部分に注目して読み進めましょう。

- (十二) 水野先生が弓子の味方になり、状況を客観的に両親に話してくれたとき、弓子は自分を肯定してくれたことにはげまされ、「父だけを一方的に攻める気になれなかった」と今の自分を省みることができています。また、先生の「さあ、これからあなたが切りひらく輝かしい未来を願って」という言葉に勇気づけられ、一緒に校歌を歌うなかで前向きな気持ちになっていった弓子の変化をまとめましょう。